

平成27年度 宇都宮都市交通戦略推進懇談会 結果概要

- 日時 平成27年4月24日（金曜日）午後1時10分から午後2時45分まで
- 場所 宇都宮市役所14A会議室
- 出席者 別添資料のとおり
- 内容
- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 議題
 - (1) 宇都宮都市交通戦略の平成26年度の実行状況と平成27年度の実行予定について
 - (2) 宇都宮都市交通戦略の見直しについて
 - 4 報告事項
 - (1) ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョンについて
 - (2) LRTの検討状況について
 - (3) ICカードの検討状況について
 - 5 閉会

【主な発言】

あいさつ

会長

- ・宇都宮の交通政策に関わって20年来、現在大きな節目を迎えている。宇都宮は公共交通ネットワークや自転車などの取組で国内外から注目されている。一方で渋滞などの問題が脈々と続いている。一歩でも二歩で戦略をいい方向に進めて行ければと思う。皆様方のご協力についてもよろしくお願ひしたい。

議題(1) 宇都宮都市交通戦略の平成26年度の実行状況と平成27年度の実行予定について

会長

- ・事務局から説明されたい。

事務局

- ・資料1説明

会長

- ・質疑等あればお願ひしたい。

委員

- ・地域内交通について、計画より遅れている地域と原因や今後の予定を教えてほしい。

事務局

- ・平石地区は平成26年度試験運行予定であったが、地域外の目的施設の設定に当たり、既存

公共交通との役割分担の調整で時間を要した。今年度は運行内容について交通事業者の合意を取り、早期導入を目指していきたい。豊郷地区は現在運行内容の検討を進めており、今年度試験運行の予定である。姿川地区は今年度アンケート調査を実施し、運行内容を固めていく予定である。

委員

- ・地域内交通は地域との境目で混乱が生じていると感じる。買い物や病院などの目的施設が地区内になく、地区外の施設への移動の需要がある。既存のバスは1時間に1本の運行と利用が困難な状況で、地域内交通で地区外に行けないとなると、自由な行動が実現できない。まちづくりの観点から柔軟性を持って対応してほしい。

委員

- ・地域内交通の地区外運行はバス事業者としても悩ましい。市民の移動の確保をどこまでみるか。地域内交通と既存のバスとの共存を求めると範囲を広げるのは難しい。一方で、地域公共交通活性化・再生法の改正など国の方針も変わってきている。公共交通の存続を考えていく必要があり、鉄道バスLR T地域内交通の共存について市とすり合わせて進めてく。

委員

- ・地域内交通の隣接地域の施設への運行については、地域の実状を見て検討してほしい。異なる公共交通が重なり合うことで便益が向上することにもなる。

議題(2) 宇都宮都市交通戦略の見直しについて

会長

- ・事務局から説明されたい。

事務局

- ・資料2説明

会長

- ・平成20年に第5次総合計画が策定され、その後都市計画マスタープランや交通戦略を策定した。策定後数年経ったところであるが、国において昨年度都市再生特別措置法を改正し、コンパクトシティプラスネットワークというまちづくりの切り替えポイントを迎えたところである。交通戦略は平成30年度を目標年次に行っているが、国の政策と合わせて見直しをしていくというものである。自治体も合わせて進めるべきであり、タイミングとしても見直しのいい時期である。

委員

- ・ネットワーク型コンパクトシティといった場合、農村部はどうなるのかイメージが分からないので説明してほしい。

会長

- ・ネットワーク型コンパクトシティについては次の報告事項で説明を予定しているので、そちらを聞いた上で、不明点があればご質問いただきたい。
- ・ほかに質問等がないようなので、議題については了承するという事によろしいか。

委員一同

- ・異議なし

報告事項(1) ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョンについて

会長

- ・事務局から説明されたい。

事務局

- ・資料3説明

会長

- ・質疑等は特にないようなので報告事項(2)に移る。

報告事項(2) L R Tの検討状況について

会長

- ・事務局から説明されたい。

事務局

- ・資料4説明

会長

- ・質疑等お願いしたい。

委員

- ・L R Tが通る地域はその機会をどう生かすかというのが課題である。地域の取組として、鬼怒川の自然で人を呼び込むことや鬼怒川のサイクリングロード整備に合わせたまちづくりを進めている。L R Tの停留場を鬼怒川近くに設けてほしい。

委員

- ・L R Tを受け入れる地域はよいが、宇都宮は平野が広がっている地理特性である。少子超高齢社会の中で、L R T沿線でない地域の高齢者は交通結節点までどう移動するのか。L R Tのような大きなビジョンも大切だが、末端の所まで掘り下げて検討してほしい。結節点までの移動手段という一個人一家庭まで配慮しないとネットワーク型コンパクトシティの形成の実現も難しいと考える。

会長

- ・宇都宮市の目指す魚の骨ネットワークは、幹線・支線からなる公共交通ネットワークであるが、幹線へつなぐためのバスやタクシー、地域内交通、自転車などが地域内でできて初めて幹線が生きる。幹線・支線の両方が重要である。ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョンで方向性が示されたので、この懇談会で協議していきたい。

委員

- ・従業者アンケートについて、回収率が37.6%である中で、未回答者の利用意向も的確に

反映した結果となっているのか。一定のリスクを見るべきと思う。

事務局

- ・従業者33000人に対してアンケート調査を行ったものであり、回答者の居住分布や通勤手段等が、対象者全体の現況と概ね一致していることを考慮した上で、LRTの最低限の需要見込みとして算出したものである。
- ・しかしながら、JR宇都宮駅方面から東進方向への通勤需要であるなど部分的な需要の数値でもあることから、今後は、最終的な需要推計として生活行動実態調査の結果を反映し精査する予定である。

委員

- ・平成31年度のLRT開業から逆算して、いつまでに何をする必要があるのか、営業主体やスケジュールの関心が高まってきている。

事務局

- ・資料にも示したが、今年度は、都市計画決定や詳細設計に取り組み、28年度の着工を目指していく。
- ・営業主体の決定については、事業者へのヒアリング等、相手もあることなので明確には言えないが、なるべく早い時期に決めていきたい。

委員

- ・LRT整備の取組は着実に進んでいるもののスケジュールは極めてタイトな状況である。今年度前半に営業主体を決定し、年度後半には、都市計画決定や特許取得などに取り組み、平成28年度の着工につなげたいと考えている。皆様の協力をいただきながら進めていきたい。

報告事項(3) ICカードの検討状況について

会長

- ・事務局から説明されたい。

事務局

- ・資料5説明

会長

- ・質疑等あればお願いしたい。
- ・バスの利用者数が上向きになっている。この増加傾向をICカードの導入でつなげていければと思う。ICカードの導入は場合によってはバスが先行することもあるか。

事務局

- ・事業者と協議をしながら、バスに先行して導入できれば導入したい。

委員

- ・函館新幹線について、インパクトのある話が必要である。この懇談会でも要望活動を行ったらどうか。

委員

- ・議会や自治会など多方向から要望を出していただいているので、引き続き今の関係団体の枠

組みで取り組んでいきたい。

会長

- ・市の方でも函館新幹線の停車を実現するための戦略を持っているだろうから、この懇談会とあわせて総合的な力を出せればと思う。
- ・交通の問題は、全国手探りで進めている状況である。宇都宮の交通について、この懇談会を通して一歩でも二歩でもよい方向に進められればと思う。

以上